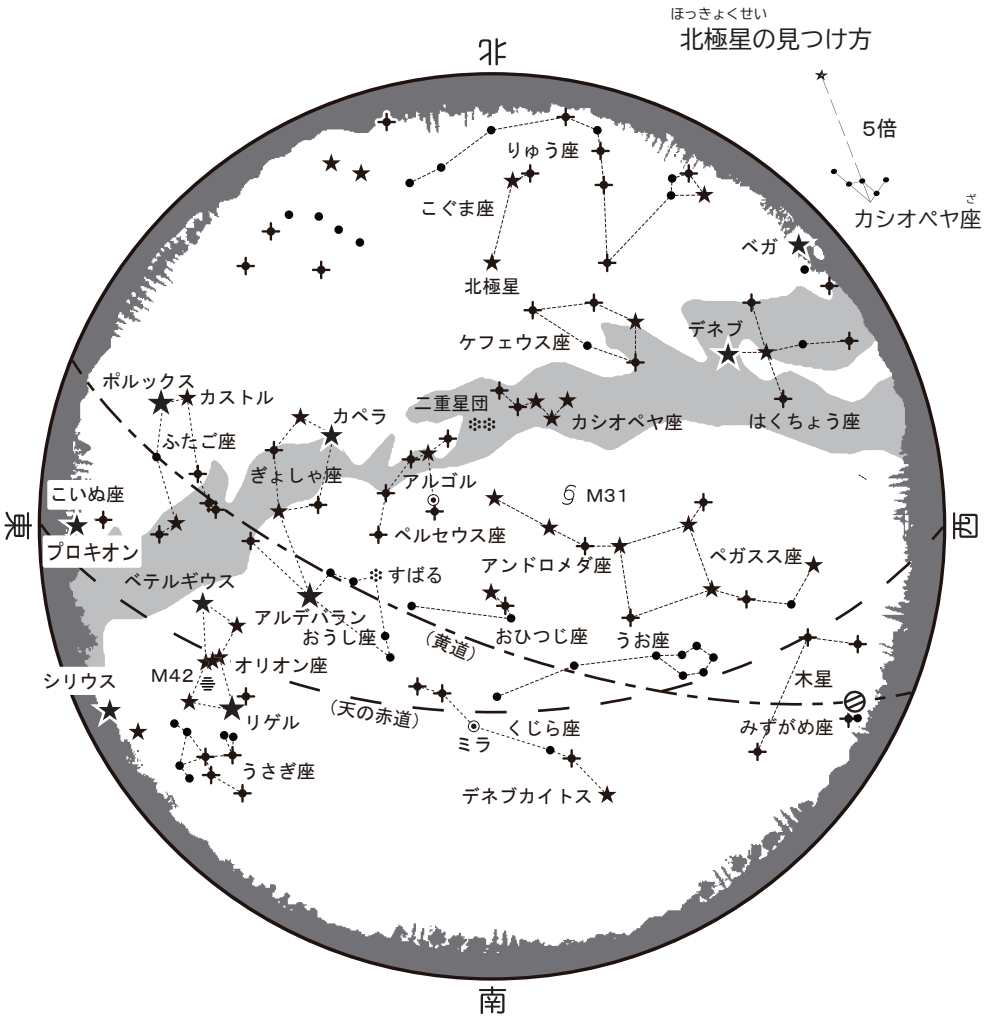
富山でみえる12月の星空　2021年

自分の見たい方角を下にして、その方角の空を見てみよう。



★　1等星と、より明るい星
★　2等星
✦　3等星
●　4等星と、より暗い星
⊙　変光星
星団
星雲
銀河

～この星空が見えるのは～

12月	5日	21時ころ
12月20日		20時ころ
1月	5日	19時ころ

～月のようす～

12月	4日	新月 ●
12月11日		上弦 ◐
12月19日		満月 ○
12月27日		下弦 ◑

カシオペヤ座

北極星を見つけるための星座としてよく知られています。Wの形と言われていますが、秋から冬はひっくり返ってMの形に見えます。日本では、船のいかりや山の形に似ているので「いかり星」とか「山がた星」と呼ばれました。

ペガスス座

ペガススは、ギリシャ神話に出てくる空を飛ぶことができる翼をもった馬です。胴体に当たるところには、「秋の四辺形」と呼ばれる大きな四角形の星の並びがあり、秋の星座たちを探す目印です。星座絵では、後ろ半分が雲にかくれて見えないことになっています。

おひつじ座

アンドロメダ座の南で、２等星、３等星、４等星の順で並んでいる３つの星が目印です。いちばん明るい２等星の名前はハマルといい、アラビア語で「羊の頭」という意味があります。星座全体は、ヘアピンのように曲がった細い形です。

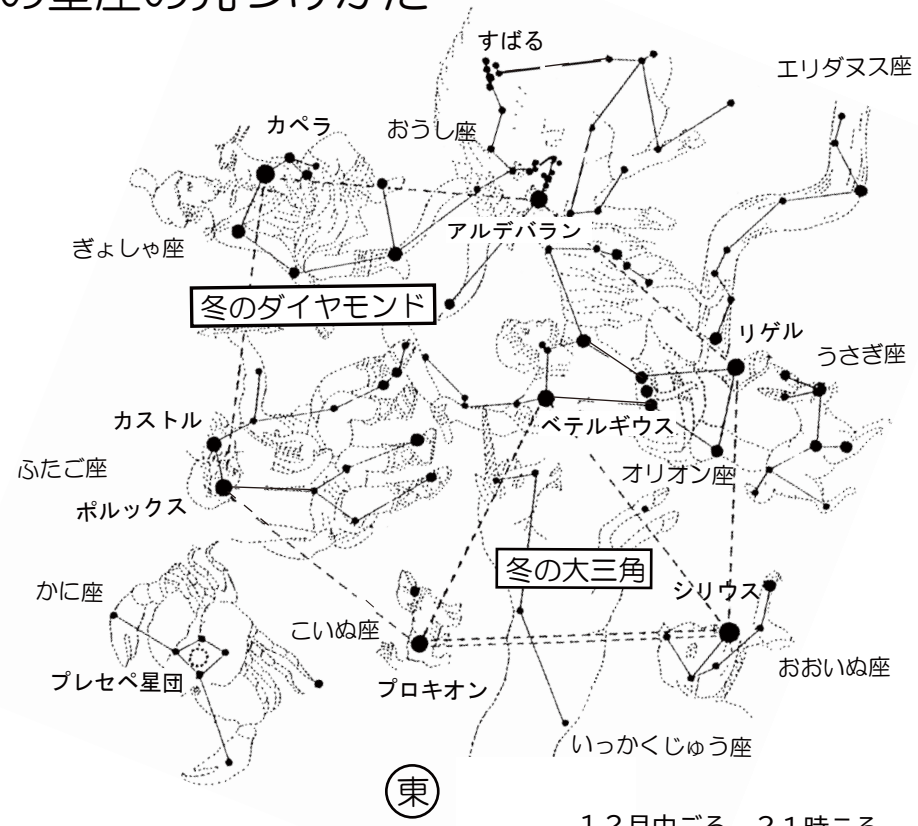
ペルセウス座

カシオペヤ座のとなりにあり、漢字の「人」の形のように星が並んでいます。毎年８月１２日ころにたくさんの流れ星が見られるペルセウス座流星群が有名です。神話では、くじら座になっている怪物を倒した勇者で、手にメデューサの首を持っています。

オリオン座

リボンのような形をした星の並びがオリオン座です。右肩の赤くて明るい星はベテルギウス、左足のやや青みがかった明るい星はリゲルで、ともに１等星よりも明るい星です。またこの星座には、オリオン大星雲（M４２）と呼ばれる星雲があります。

冬の星座の見つけかた



１２月中ごろ　２１時ころ

1　リボンのような形のオリオン座を見つけます。
2　オリオン座の真ん中の３つ並んだ星（三つ星）を上にのばして、おうし座のアルデバランを見つけます。
3　アルデバランの左に、カペラと五角形に並んだぎょしゃ座を見つけます。
4　オリオン座の三つ星を下にのばして、冬の星座で一番明るくかがやくシリウスを見つけます。
5　オリオン座のベテルギウス、おおいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオンで作る「冬の大三角」を見つけます。
6　ぎょしゃ座の下に、２つ並んだ明るい星のあるふたご座を見つけます。
7　１等星以上の明るさのシリウス、プロキオン、ポルックス、カペラ、アルデバラン、リゲルをつなぐ大きな６角形が「冬のダイヤモンド」です。

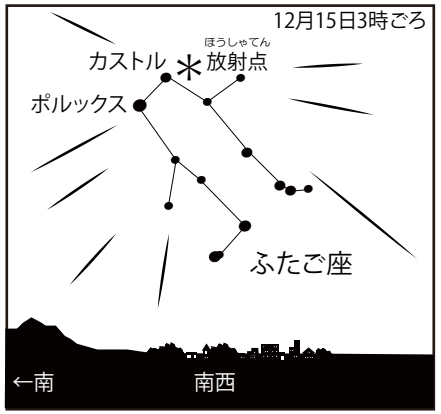
○２０２１年 地球から最も遠い満月

2021年 最も近い満月
5月26日 35万7000km

2021年 最も遠い満月
12月19日 40万6000km

地球の周りを公転する月の軌道は楕円形をしているため、地球と月との距離は一定ではありません。さらに、月の軌道は太陽や地球などの重力を受けて変化しています。そのため、満月や新月のときの距離は毎回異なります。今年、最も近い満月は５月２６日でした。その時の満月と比較すると１２月１９日の満月は約５万kmも遠くにあるため、見かけの直径で約１２パーセント小さくなります。とは言え、実際の夜空に月を二つ並べて比較することはできないため、月を眺めて大きさの変化に気づくのはむずかしいかもしれませんね。

○月が沈んだ後、ふたご座流星群を観察するチャンス！



毎年活発な出現を見せてくれるふたご座流星群が、１２月１４日１６時ごろにピークになると予想されています。しかし、この日は満月前の月明かりのために条件がよくありません。日付が変わった１５日の３時前に月が沈むので、それ以降明け方までが流星をたくさん観察するチャンスです。流星は空全体を見るのがよいので、レジャーシートを敷いて地面に寝転び、できるだけ空が開けたところで見るのがおすすめです。大変寒い季節ですので、寒さ対策をしっかり行ってください。